

I n a d o m i d o u m e n

稲富・道免遺跡 2

令和元年度個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第131集

2021

八女市教育委員会

I n a d o m i d o u m e n

稲富・道免遺跡 2

令和元年度個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第131集

2021

八女市教育委員会

序

本報告書は、八女市稲富に所在する稲富遺跡群の中で、個人住宅建設に伴い、現地保存が困難となる部分を対象に実施した発掘調査報告です。

今回の調査地が所在する稲富遺跡群では、過去に鎌倉時代前後の建物跡や井戸跡、集落を区画する溝跡等が発見されており、今回の調査地も同一の中世集落跡の一部であることが確認されました。

今回の調査では、稲富地区の古代から中世にかけて集落跡の一部が明らかとなりました。なお、今回調査地付近では近年開発が多く、数次の発掘調査を重ねており、現在も徐々に集落跡の様子が判明してきているところです。

本報告書を、八女市の歴史を知る基礎資料として活用頂ければ幸いです。

最後になりましたが、文化財保護にご協力いただきました施主様はじめ開発事業者の皆様、発掘作業員・整理事業員の皆様、および関係各位に改めて感謝申し上げます。

今後も、八女市の文化財保護行政にご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和3年3月31日

八女市教育委員会
教育長 橋本 吉史

目 次

本文目次

1 調査の経緯と経過	1
2 遺跡の位置と環境（地理的環境・歴史的環境）	3
3 調査の方法と基本層序	6
4 出土遺構・出土遺物	7
5 総括	8

挿図目次

第1図 稲富・道免遺跡の位置	1
第2図 稲富・道免遺跡の位置および周辺の遺跡（S= 1 / 12,000）	3
第3図 稲富・道免遺跡周辺図および近年の調査状況（S= 1 / 2,500）	5
第4図 稲富・道免遺跡調査区全体図（S= 1 / 80）	6
第5図 稲富・道免遺跡 SD01 実測図（S= 1 / 50）	7
第6図 稲富・道免遺跡 SD01 出土遺物（S= 1 / 4）	8

例 言

- ・本書は、令和元年8月に個人専用住宅建設に先立ち国庫補助・県費補助を受けて実施した、八女市稲富字道免 244 番地 10・245 番地 7 所在の、稲富・道免遺跡第2次発掘調査の報告書である。
- ・本報告の発掘調査は令和元年度に八女市教育委員会が実施し、令和2年度に整理作業・報告書作成を八女市教育委員会で実施した。
- ・本書の遺構実測図は国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）をもとに作成し、図面で示す方位は全て座標北である。また、第2図・第3図には平成6年度作成の八女市都市計画図（1：2,500）を加筆・改変し作図した。
- ・本書で使用した遺構実測図は、檀 佳克（八女市教育委員会文化振興課）が作成した。また、本書掲載の遺物実測図は、檀が作成した。
- ・本書の原稿執筆・写真撮影・編集は、檀が実施した。
- ・発掘調査実施にあたり、事業主はじめ多くの方のご協力を得た。記して感謝申し上げる。溝田 壽（地権者）・秦昌昭（秦建築コンサルタント）・稲富地区の皆様（敬称略）
- ・調査図面、写真および出土遺物は八女市教育委員会が保管している。有効な活用を望む。

1 調査の経緯と経過

今回発掘調査を実施した稲富・道免遺跡（第2次調査）は、福岡県八女市稲富字道免244番地10・245番地7に所在する。

本調査に至る発端は、当該地に個人専用住宅建設が計画されたことである。平成27年7月17日に文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出があり、近隣の過去の調査事例からも、埋蔵文化財が存在する可能性が考えられた。また、建物基礎に杭工事が計画されていたことから工事掘削深度が深く、遺跡への影響が大きい工事内容であった。このことから、埋蔵文化財有無確認のための試掘・確認調査を令和元年7月23日に実施した（担当：八女市教育委員会文化振興課 檀 佳克）。

その結果、地表下約100cmの黒褐色土中から土器片が出土し、土坑状の遺構も確認された。このことから、当該地における住宅建設は、現行計画通りであれば地下の埋蔵文化財に影響があるため、発掘調査が必要となる旨、事業者に伝え、浅い深度での工事掘削で住宅建設が出来ないか協議を重ねた。しかし、当該地の地耐力が弱く、工事に際して杭工事は避けられない旨、事業者より回答があった。このことから、31八文文第485-1号で県教育委員会に試掘の結果発掘調査が必要と思われる旨副申し、福岡県教育委員会より令和元年7月24日付け1教文第350号-377で発掘調査の指示があり、その旨文書で事業者に通知し（令和元年7月31日付け31八文文第485-3号）、国庫補助を受けて、工事掘削がなされる箇所を対象に、発掘調査による記録保存を実施することとなった。

事業主と八女市は令和元年7月29日に発掘調査の覚書・協定書を締結し、住宅建設予定地の約120㎡の現地発掘作業を実施する運びとなった。

八女市教育委員会では、令和元年7月26日付け31八文文第513号で文化財保護法第99条第1項に基づく発掘調査の報告をし、現地作業を令和元年8月1日から着手し、令和元年8月22日に完了した（延べ9日間）。なお、発掘調査日誌から経過を抜粋すると、8月1・2日に表土除去作業、7日～9日に包含層掘削および遺構検出を行った。



第1図 稲富・道免遺跡の位置

折しも、集中豪雨による浸水と猛暑日が続く中で、極めて過酷な発掘作業であった。その後、台風や豪雨による調査区冠水による中断を余儀なくされ、幾度とない水汲み作業を要した。また、常に水が湧いてくる状況が続き、掘削作業は難航した。8月20・21日に完掘し、写真・図面記録作成を8月21・22日に行っている。

出土遺物は整理箱1箱分（土器片1）であり、令和元年8月22日に八女警察署に発見届（31八文文第606号）および福岡県教育委員会に保管証（31八文文第607号）を提出した。令和2年度は整理作業（遺物の洗浄・注記・復元・作図及び現場図面整理）を実施し、報告書作成作業を完了した。

発掘調査後の現在、当該地は個人専用住宅として利用されている。

なお、調査当時の体制は、以下のとおりである。

【令和元年度（平成31年度）】（現地作業）

（調査主体）

八女市教育委員会	教育長	橋本	吉史
教育部	部長	井手	勇一
文化振興課	課長	久間	政幸
文化係	参事補佐兼		
	文化係長	中川寿賀子	（調査総括）
同	係員	永田 寧	
同	係員	檀 佳克	（調査担当）
同	係員	馬渡 洋平	（事務担当）
同	係員	甲斐 郁	

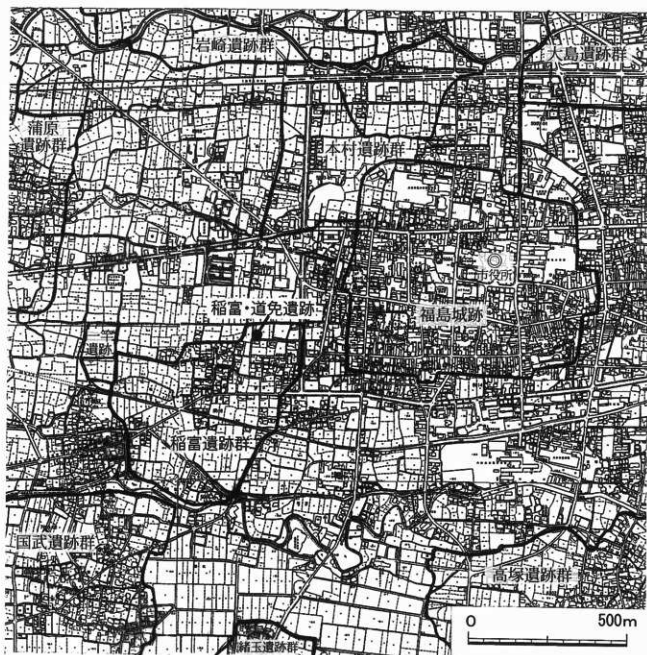
【令和2年度】（整理作業・報告書作成・刊行）

（調査主体）

八女市教育委員会	教育長	橋本	吉史
教育部	部長	原	信也
文化振興課	課長	久間	政幸
	課長補佐兼		
	文化係主任	深町 明夫	（調査総括）
文化係	参事補佐兼		
	文化係長	高山 康博	
同	係員	高口 愛	（事務担当）
同	係員	檀 佳克	（調査担当）
同	係員	甲斐 郁	

2 遺跡の位置と環境（地理的環境・歴史的環境）（第2図・第3図）

稲富・道免遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地「稲富遺跡群」の北端部分に位置する。八女市稲富地区は、八女市中心部である福島小学校区の西部に所在する。旧八女市域の沖積平野中に所在し、北側の八女丘陵から南側に向かって緩やかに下降する現地形である。すぐ東側には福島城跡の外堀が所在し、福島城のすぐ西隣に所在する。また、稲富遺跡群の西側には弥生時代を中心とした集落が発見された一竿遺跡や中世に館跡があったとされる蒲原遺跡群等があり、北側には本村遺跡群・岩崎遺跡群があり、本村遺跡群の南西部分は今回調査の稲富遺跡群集落の一部を含む可能性がある。南側には国武遺跡



第2図 稲富・道免遺跡の位置および周辺の遺跡 (S= 1 / 12,000)

群や緒玉遺跡群があり、湿地帯を挟んで南側にも弥生時代や古代の集落跡が存在する状況が、既往の調査で判明している。

稲富遺跡群では、平成 20 年以前には大規模な開発はほとんど無かった。今回調査地のすぐ北東に位置する「稲富・六反田遺跡」で鎌倉時代を中心とする集落跡が発見されていたのが、唯一の考古学的調査事例と言える（赤崎 2009）。

その後、平成 20 年代後半以降、都市計画道路が計画されたことに伴う試掘調査・発掘調査を実施した。加えて、都市計画道路完成後には宅地造成等の周辺地域開発が増加し、平成 28 年度から令和 2 年度現在にかけて、稲富遺跡群周辺での調査事例が急増している状況にある。それに伴い、稲富・六反田遺跡調査区では不十分であった集落範囲等を把握するに足る調査成果が、現在充実してきている。

調査を実施した令和元年度当時では、平成 28 年度以降から当該地周辺では開発に伴う試掘・確認調査や工事立会が相次いでおり、今回調査地周辺でも稲富遺跡群集落跡に伴う埋蔵文化財が多く発見されるとともに、埋蔵文化財が存在しない範囲も明確になりつつある。稲富遺跡群周辺の地形に関する知見もかなり充実してきており、今回発掘調査を実施した箇所付近では、周囲に湿地帯が存在する島状微高地で、微高地と低湿地が入り組んでいる状況であることと、微高地上に少なくとも古墳時代前期以降には、集落跡が形成されている状況が明らかとなりつつある（詳細は近日に発掘調査報告書を刊行予定）。このように、平成 13（2000）年度当時の「周知の埋蔵文化財包蔵地」としての稲富遺跡群は、当初想定範囲と実態にずれがあることも判明してきたため、その範囲の見直し等が急務となるに値する程の成果を、近年の調査で挙げてきている。

以上のように、稲富・道免遺跡を含む稲富遺跡群周辺では、古墳時代から中世にかけての遺構・遺物が存在する地域であることが判明しつつあり、近年は開発行為も都市計画道路建設に伴って急増している地域であるため、周辺地域での開発には細心の注意を要する。

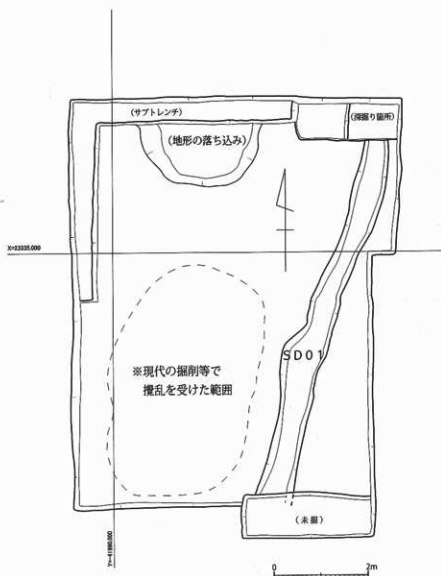
【参考文献】

- ・ 赤崎敏男編 2009『稲富・六反田遺跡』八女市文化財調査報告書第 85 集 八女市教育委員会
- ・ 檀 佳克編 2017『稲富・道免遺跡』八女市文化財調査報告書第 121 集 八女市教育委員会
- ・ 八女市教育委員会編 2001『八女市文化財等分布地図』八女市教育委員会

3 調査の方法と基本層序

発掘調査では、重機を用いて表土および遺物包含層上部を除去後、人力で掘削をした。その結果、試掘・確認調査結果と同様に、現地表下約 110 cm で遺物包含層相当の黒褐色粘土層が検出され、その上面から約 30 cm 程度まで遺物の有無を確認しつつ重機掘削を行った。重機で排土補助を行いつつ一部で掘り下げを続けた結果、地表下約 160 cm で遺構面が確認され、溝状遺構 1 条が確認された。

なお、今回の調査区は試掘調査箇所より西側に寄っており、調査区の西側は低湿地帯であることが判明し、遺構・遺物は存在しないことが判明した。また、調査区南半部分は、ビニール等の現代の遺物と共に木材等が埋め込まれた穴が掘られていることが判明し、調査区南半部の遺跡は既に攪乱を受けていて、遺跡が残存しない状況が明らかとなった。



第4図 稲富・道免遺跡第2次調査区全体図 (S= 1 / 80)

今回の調査では十分な排土置場が確保できず、当初は北半部調査の後に反転して南半部の調査を行う予定としていたが、前半の掘削時に溝状遺構1条のみの可能性が高まったことから、先に南半部を掘削して溝状遺構1条以外に遺構がない状況を確認後、北半部の記録を取り、調査区南西側に北側に置いた排土を反転し、南半部の溝状遺構箇所のみを追加掘削して記録を作成する方法を取った。

今回の調査地の基本土層は、表土層（地表面～地表下約110cm）の下位に遺物包含層相当の黒褐色粘土層（地表下約120～160cm）があり、その直下で遺構検出面に相当する黄褐色粘土層がある。黄褐色粘土層の上面は、上層の黒褐色粘土層が混じる状況で、低湿地帯の底面に似る状況が確認される。

なお、調査中に数度の豪雨に見舞われた影響もあるが、黄褐色粘土層上面は地下水が常に浸み出す状況が確認され、半日置いておくと水溜まりとなるような状況であった。

今回調査地の東側約50mの稲富・道免遺跡

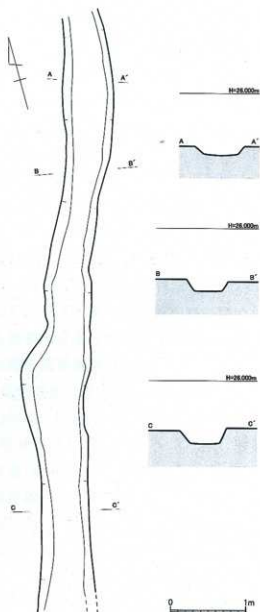
1次調査地と比較すると、遺構検出面相当の黄褐色土上面の深度が今回調査地は約50cm深くなっている。このことや、調査時に確認された土層の状況等を勘案すると、今回の調査地は低湿地帯か、もしくは稲富・六反田遺跡調査で検出されたSD01および、それと同一の稲富・道免遺跡第1次調査SD01（ともに河川と思われる自然流路であることが判明している）に付随する、低地帯に位置する可能性が高いと思われる。

以上のことから、今回の調査地が稲富・六反田遺跡を含む稲富・道免遺跡の西端部分の一端に位置すると考えられる。

4 出土遺構・出土遺物（第4～6図）

遺構は、調査区の東半部分で溝状遺構1条（SD01）のみが確認された。なお、調査区北端中央付近で浅い土坑状に地面がくぼむ箇所が確認されたが、土層の状況等から水溜まり状の自然地形と判断した。遺物は、SD01付近の包含層相当の黒褐色土から古代に属する土器片1点が出土したのみであった。

以下、遺構と遺物の詳細について述べる。



第5図 稲富・道免遺跡第2次SD01実測図（S=1/50）

① 溝状遺構 (SD01) (第5図)

調査区の東端で検出した、北北東—南南西方向に延びる溝状遺構である。検出面からは幅約 60 cm、深さ約 20 cm 程度と、狭く浅い溝である。土層は上層の包含層相当の黒褐色土で埋没しており、人工的な流路と言うよりは、人工的に土地を区画する溝等であった可能性が高いと思われる。掘削時にも細心の注意を払ったが、遺物等の出土は確認されなかった。

なお、当該地の東側約 50 m の地点で実施した稲富・道免遺跡第 1 次調査区や、その北隣に位置する稲富・六反田遺跡第 1 次調査区でも、今回検出した溝状遺構と同様の細い溝が確認されており、古代ないし中世の集落跡に伴う区画溝等の性格が考えられる。

② 出土遺物 (第6図)

出土遺物は今回の発掘調査ではほとんど確認されず、図化可能であったものは須恵器の破片 1 点のみであった (第 6 図 1)。発掘調査前の試掘・確認調査時に、上記の SD01 溝状遺構のすぐ東側の、弥生時代から中世にかけての遺物包含層に相当する黒褐色粘土層より出土した。須恵器の高台付坏の下半部であり、灰色で硬く焼けている。回転ナデによる成形後、底部



第 6 図 稲富・道免遺跡第 2 次
出土遺物 (S = 1/4)

はヘラ切りの後ナデ調整がなされ、その後に高台を添付している。内面見込み部分には不定方向の丁寧なナデ調整が施される。この須恵器は、調整手法や高台の形態の特徴等から、8 世紀台に位置付けられる。

なお、今回調査地から北東側約 50 m に位置する稲富・六反田遺跡調査地や、東側約 50 m に位置する稲富・道免遺跡第 1 次調査区でも、同時期の遺物が確認されており、1 次調査区で発見された集落遺構が、今回の調査地付近までの範囲を含む可能性を示しているものと言える。

5 総括

稲富・道免遺跡は、八女市中心部である福島地区の西部に所在し、稲富遺跡群の北端部に位置する。昭和時代からの稲富集落域でみても、集落の北端部分にあたり、調査地北側はもともと水田域であったが、近年の開発により新興住宅域に変貌を遂げつつある地域であり、令和元年度の調査着手段階では、既に周辺は集合住宅や新興住宅地に囲まれている状況であった。

稲富・道免遺跡では、過去に土器出土が確認された事例や試掘・確認調査等により、集落遺跡の存在は想定されてきた。本調査は約 100 m² と極めて小規模な調査ではあるが、集落跡の一端が明らかとなった。

発掘調査では、調査区内で現代に掘り返された箇所が大半であったこともあり、当初想定されていた程の遺構は発見されなかったが、調査区東端で溝状遺構が1条発見された。この溝状遺構は調査地東側約50mに位置する1次調査地でも同様のものが発見されており、その際の所見から、集落域内を区画する区画溝等の性格を有すると想定される。また、調査区内でも北西方向に向かって地形が下降する状況が確認され、調査区西半部分では、遺構検出面相当の黄褐色土層上面で湿地状に水に浸かっていたと思われる痕跡も観察された。このことから、今回の調査地は稲富・道免遺跡の古代・中世集落跡の西端部分に位置している可能性が高いことが、今回の調査で判明した。

遺構は、溝状遺構が1条発見され、その形状や直線的に伸びる状況等から、集落域の区画溝である可能性が高い。時期は遺物等を欠くことから決定打を欠くが、既往の調査例等から中世ないし古代に属する可能性が高い。

遺物は、調査区内の遺跡の残存状況があまり良くなかったこともあり、ほとんど出土しなかったが、包含層相当土中より須恵器の小片が確認され、時期は古代（8世紀代）に位置づけられる。

周辺の調査事例から、今回の調査地は稲富・六反田遺跡第1次調査地（赤崎2009）および稲富・道免遺跡第1次調査（檀2017）で発見された古代および中世の集落跡と同一集落である可能性が極めて高く、集落域の北西端部分に位置する可能性が高い。周辺の現況地形から類推しても、今回の調査地から南側に少なくとも約50m、東側には50m以上、北西側には100m以上の範囲で集落域が存在する可能性が高いと思われる。今回の調査を含めても、稲富・道免遺跡の発掘調査面積は極めて小規模ではあるが、稲富・六反田遺跡付近に向かうにつれて遺構密度も高くなり、井戸等も多く検出されている。古代および中世の集落の中心域は稲富・六反田遺跡付近になる状況が、ようやく僅かながら垣間見える状況である。

本調査地周辺では、水田域の中央を通す形で都市計画道路が開通し、近年は周辺の水田が徐々に住宅域に変貌を遂げている。住宅地として変貌を遂げつつあるが、稲富・道免遺跡周辺では、今回の調査地の南北方向および東側に古代～中世にかけての集落跡が埋蔵されている状況が明らかとなっている。今後の調査成果が期待される。

稲富・道免遺跡は、稲富地区のみならず八女市の古代・中世の歴史を語るうえで欠かさない遺跡であり、今後も開発に際しては、細心の注意が必要である。

【参考文献】

- ・赤崎敏男編2009『稲富・六反田遺跡』八女市文化財調査報告書第85集 八女市教育委員会
- ・檀 佳克編2017『稲富・道免遺跡』八女市文化財調査報告書第121集 八女市教育委員会

写真図版
P L A T E S



稲富・道免遺跡第2次 調査前風景 (南東より)



稲富・道免遺跡第2次 表土除去作業 (南東より)



稲富・道免遺跡第2次 1号溝状遺構 (SD01)
検出状況 (南より)



稲富・道免遺跡第2次 北半部完掘状況 (南より)



稲富・道免遺跡第2次 1号溝状遺構完掘状況(南より)



稲富・道免遺跡第2次 出土遺物(須恵器 高台付坏:左が内面、右が外面)

報告書抄録

ふりがな	いなどみ・どうめんいせき2							
書 名	稲富・道免遺跡2							
副 書 名	令和元年度個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻 次								
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ号	第131集							
編 著 者 名	檀 佳克(だん よしかつ)							
編 集 機 関	八女市教育委員会							
所 在 地	〒834-8585 福岡県八女市本町647 TEL. 0943-23-1982 FAX. 0943-24-4331							
発 行 年 月 日	西暦 2021 (令和3) 年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いなどみ・どうめんいせき 稲富・道免遺跡	ふくおかけんやめし 福岡県八女市 いなどみあざどうめん 稲富字 道免 244 番 地 10、245 番地 7	402109	408016	33° 12' 34"	130° 32' 58"	20200801 ~ 20200822	約 100 m ²	個人専用 住宅建設
所収遺跡	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
稲富・道免遺跡 (稲富遺跡群)	集 落 跡	平安時代・鎌倉時代		溝状遺構 1		須恵器 1		
要 約	個人専用住宅建設に伴い発掘調査を実施した、稲富・道免遺跡に関する報告である。 今回の発掘調査では、古代ないし中世に属すると思われる溝状遺構が1条発見され、集落域の区画溝と思われる。出土遺物は古代の須恵器片が1点出土した。 今回の調査の結果、調査範囲は極めて狭小であったが、稲富・道免遺跡の古代・中世の集落跡が今回の調査地付近にまで含まれること、今回の調査地が稲富・道免遺跡集落の所在する低高地西端部分の一端であることが判明した。 既往の調査や近年の調査結果から、稲富・道免遺跡集落の中心は、今回調査地から北東約50mの稲富・六反田遺跡付近であると想定され、調査地の南北方向に延びる状況が窺える。稲富遺跡群の集落遺跡範囲の詳細は、今後の周辺地域での調査により、より鮮明になっていくことが期待される。							

※座標は世界測地系による。国土地理院ホームページの地図検索システムより得たものであり、基準点測量によって得た値ではない。

稲富・道免遺跡 2

八女市文化財調査報告書
第131集

令和3年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647
印刷 (株) 東兄弟
八女市祈禱院563